

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年10月28日（木）
- 2 確認箇所
1～4号機タービン建屋東側
- 3 確認項目
日本海溝津波防潮堤の設置状況

4 確認結果の概要

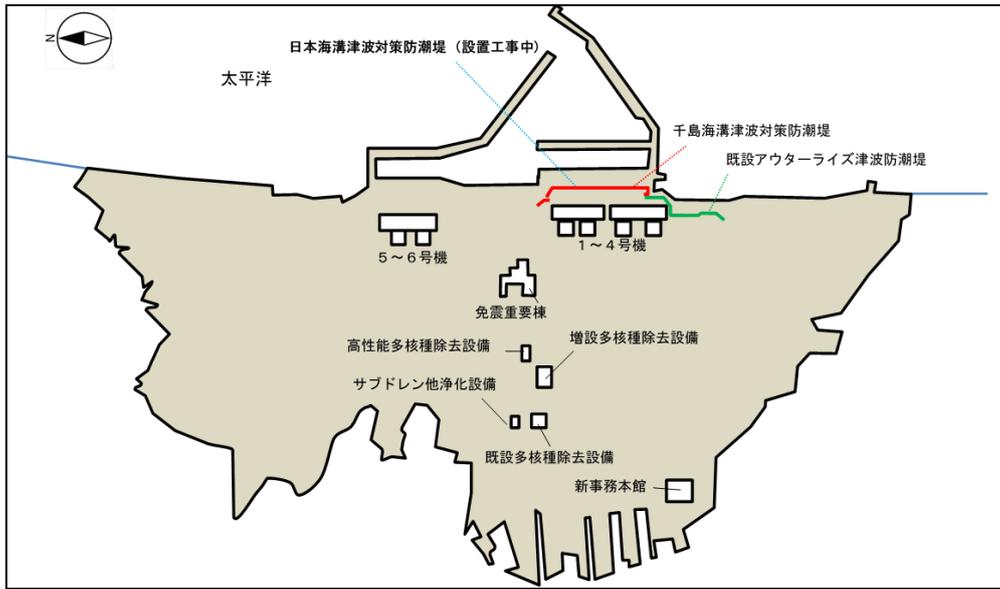
令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力では11.8m規模の日本海溝津波による建屋内の滞留水の増加防止及び廃炉重要関連設備の被害軽減のため、防潮堤の設置を進めている。

本日は、前回（6月25日）に続き、工事の進捗状況を確認した。

（図1）

- ・現場では2.5m盤から8.5m盤までの間の斜面を補強するためのテールアルメ工法^{*}を用いたコンクリート壁面が建設されており、基礎コンクリートの上にはテールアルメが2段積みで設置されていた。テールアルメの陸側はアッシュクリートで盛土されており、作業員は運び込まれたアッシュクリートを重機で均す作業をしていた。（写真1）
- ・現場の北側にも同様にテールアルメが設置されており、陸側に盛土されたアッシュクリートは均されており、既に固化していた。（写真2）
- ・東京電力では、本防潮堤を令和5年下期までに完成するとしている。

※ テールアルメ：テールアルメ工法は、補強土壁工法で、ストリップと呼ばれる帯鋼と土との間に大きな摩擦が生じることを前提に、盛土材料中に補強材としてストリップを敷設する事によって、鉛直な法面を形成する。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
コンクリート壁面の建設状況
(南東側から撮影)



(写真1-2)
テールアルメの建屋側の状況
(北西側から撮影)



(写真1-3)
設置前のテールアルメの状況
(南東側から撮影)



(写真2)
固化したアッシュクリート
(南側から撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。